

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和元年6月12日

【四半期会計期間】 第20期第3四半期(自平成31年2月1日至平成31年4月30日)

【会社名】 株式会社メディアシーク

【英訳名】 MEDIASEEK, inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 西尾直紀

【本店の所在の場所】 東京都港区南麻布三丁目20番1号

【電話番号】 (03)5423 - 6600

【事務連絡者氏名】 取締役業務管理部長 根津康洋

【最寄りの連絡場所】 東京都港区南麻布三丁目20番1号

【電話番号】 (03)5423 - 6600

【事務連絡者氏名】 取締役業務管理部長 根津康洋

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第3四半期 連結累計期間	第20期 第3四半期 連結累計期間	第19期
会計期間	自 平成29年8月1日 至 平成30年4月30日	自 平成30年8月1日 至 平成31年4月30日	自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日
売上高 (千円)	1,081,709	1,369,516	1,502,212
経常損失() (千円)	100,294	52,502	117,569
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失() (千円)	68,463	72,989	88,825
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	182,053	71,456	195,790
純資産額 (千円)	1,600,688	1,513,241	1,584,698
総資産額 (千円)	2,263,753	2,102,417	2,197,312
1株当たり四半期(当期)純損失() (円)	7.03	7.49	9.12
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	68.7	69.0	70.0

回次	第19期 第3四半期 連結会計期間	第20期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成30年2月1日 至 平成30年4月30日	自 平成31年2月1日 至 平成31年4月30日
1株当たり四半期純損失金額() (円)	0.87	6.35

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益について、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 経営成績

当第3四半期連結累計期間においては、世界的な政治・経済環境の変動において先行き不透明な状況が続いていることから、日本経済全般に対する中長期的影響について引き続き先行き不透明な状況が続いております。

当社グループは、法人事業において、国内クライアント企業向けRPA(ロボットによる業務自動化)ツール導入のコンサルティング業務が拡大しつつあり、また、コンシューマー事業においては、スマートフォン向け広告収入が比較的堅調に推移しており、売上は前年同期より増加傾向にあります。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,369,516千円(前年同期比26.6%増)、営業損失は、86,826千円(前年同期は、142,887千円の営業損失)、経常損失は、52,502千円(前年同期は、100,294千円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失は、72,989千円(前年同期は、68,463千円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメント別の概況は以下の通りです。

(法人事業)

法人事業においては、主に国内の法人クライアントに対するシステムコンサルティングサービスを実施しました。

国内クライアント企業向けRPA(ロボットによる業務自動化)ツールの導入コンサルティング業務が拡大し、当社グループが提供するRPAツール「ipaS」のライセンス数も堅調に拡大しています。その結果、同事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,110,941千円(前年同期比31.8%増)、セグメント利益は、35,949千円(前年同期は、14,573千円のセグメント損失)となりました。

(コンシューマー事業)

コンシューマー事業においては、スマートフォン向け無料提供アプリ「バーコードリーダー/アイコンット」が2019年1月に累計2,900万ダウンロードを達成し、その後もダウンロード数を拡大しております。スマートフォン向け広告収入が比較的堅調に推移しているほか、2019年より開始した「黒羽麻璃央のワンダーランド」等、実写版シミュレーションゲームの利用が比較的堅調に拡大しております。

コンシューマー事業全体としては、ほぼ前年同期並の実績となりました。その結果、同事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は、258,548千円(前年同期比8.4%増)、セグメント利益は、37,102千円(前年同期比9.6%減)となりました。

(その他)

その他においては、前連結会計年度に新設した研究開発部門にて、動画配信及び画像解析等の分野の研究開発を中心とした事業開発を実施しました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、26千円(前年同期比61.8%減)、セグメント損失は、16,531千円(前年同期は、26,157千円のセグメント損失)となりました。

なお、売上が発生しておりますが、現段階での研究開発活動における副次的な産物であり、僅少な金額に留まっております。

(2) 財政状態

資産の部

資産の総額は、2,102,417千円(前連結会計年度末比4.3%減)です。

流動資産は、総資産の53.6%に相当する1,126,110千円(前連結会計年度末比12.4%減)です。流動資産の前連結会計年度末からの減少額は、159,838千円となっておりますが、この主要因は、現金及び預金が203,891千円減少したことによるものです。なお、現金及び預金の残高は、763,391千円となっており、依然流動資産の大きな割合を占めております。

固定資産は、総資産の46.4%に相当する976,307千円(前連結会計年度末比7.1%増)です。

有形固定資産は、総資産の2.5%に相当する53,506千円(前連結会計年度末比228.1%増)となっております。大幅な増加となっているのは、事務所増床工事が発生したことによります。無形固定資産は、総資産の0.1%に相当する1,946千円(前連結会計年度末比28.8%減)であり、いずれも僅少な割合となっております。

投資その他の資産は、総資産の43.8%に相当する920,853千円(前連結会計年度末比3.2%増)です。増加の主要因は、投資その他の資産のその他に含まれる敷金が増床により、23,502千円増加したことによるものです。投資その他の資産のその他の内訳として、長期滞留債権が26,650千円計上されておりますが、全額に相当する26,650千円について貸倒引当金が計上済みであるため、貸倒れの確定による多額の追加損失発生の恐れはありません。また、投資有価証券が802,986千円計上されておりますが、このうち785,175千円は時価を有する性質のもので

負債の部

負債の総額は、負債純資産合計の28.0%に相当する589,175千円(前連結会計年度末比3.8%減)です。

流動負債は、負債純資産合計の18.7%に相当する393,766千円(前連結会計年度末比2.5%増)となっております。流動負債の前連結会計年度末からの増加額は、9,587千円となっておりますが、この主要因は、1年内返済予定の長期借入金が50,214千円減少した一方で、流動負債のその他に含まれる未払金が24,070千円増加したこと、預り金が21,821千円増加したこと及び未払費用が9,943千円増加したことによるものです。

固定負債は、負債純資産合計の9.3%に相当する195,408千円(前連結会計年度末比14.5%減)となっております。前連結会計年度末からの減少額は、33,025千円となっており、主に長期借入金が43,717千円減少したことによるものです。

純資産の部

純資産の総額は、1,513,241千円(前連結会計年度末比4.5%減)であり、自己資本比率は、69.0%と高い水準を維持しております。純資産の前連結会計年度末からの減少額は、71,456千円となっておりますが、この主要因は、非支配株主持分が14,948千円増加した一方で、その他有価証券評価差額金が13,192千円減少したこと及び親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことにより利益剰余金が72,989千円減少したことによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

主として今後市場の拡大が見込まれる動画配信、画像解析及び人工知能等の分野を中心に研究開発を進め、将来の収益化のためのノウハウを蓄積しております。

当第3四半期連結累計期間における研究開発費は16,558千円となっております。

また、その他にも通常の営業活動の一環として、「ブレインテック(Brain Tech)」や「QRセルフレジ」等の新規事業領域への展開を積極的に行っております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成31年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (令和元年6月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,766,800	9,766,800	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数100株
計	9,766,800	9,766,800		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成31年4月30日		9,766,800		823,267		956,507

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成31年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 23,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,705,500	97,055	株主として権利内容に制限のない標準となる株式
単元未満株式	普通株式 38,000		
発行済株式総数	9,766,800		
総株主の議決権		97,055	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成31年1月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成31年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社メディアシーク	東京都港区南麻布 三丁目20番1号	23,300		23,300	0.24
計		23,300		23,300	0.24

(注) 上記の他に単元未満株式の買取請求による自己株式19株を所有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成31年2月1日から平成31年4月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年8月1日から平成31年4月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成31年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	967,282	763,391
売掛金	198,647	218,992
商品	2,390	2,611
仕掛品	15,564	16,643
その他のたな卸資産	3,500	4,140
その他	98,959	120,750
貸倒引当金	395	420
流動資産合計	1,285,948	1,126,110
固定資産		
有形固定資産	16,307	53,506
無形固定資産		
その他	2,732	1,946
無形固定資産合計	2,732	1,946
投資その他の資産		
投資有価証券	797,519	802,986
その他	121,455	144,518
貸倒引当金	26,650	26,650
投資その他の資産合計	892,323	920,853
固定資産合計	911,363	976,307
資産合計	2,197,312	2,102,417

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成31年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	41,484	47,359
短期借入金	30,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	201,526	151,312
未払法人税等	5,972	4,768
賞与引当金	22,096	16,335
関係会社整理損失引当金	5,041	5,041
その他	78,058	138,949
流動負債合計	384,179	393,766
固定負債		
長期借入金	199,458	155,741
資産除去債務	27,724	36,707
その他	1,251	2,960
固定負債合計	228,434	195,408
負債合計	612,614	589,175
純資産の部		
株主資本		
資本金	823,267	823,267
資本剰余金	954,521	954,521
利益剰余金	113,990	186,979
自己株式	39,704	39,704
株主資本合計	1,624,093	1,551,104
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	83,230	96,423
為替換算調整勘定	3,177	3,401
その他の包括利益累計額合計	86,408	99,824
新株予約権	3,313	3,313
非支配株主持分	43,699	58,648
純資産合計	1,584,698	1,513,241
負債純資産合計	2,197,312	2,102,417

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年8月1日 至平成31年4月30日)
売上高	1,081,709	1,369,516
売上原価	903,058	1,085,586
売上総利益	178,650	283,929
販売費及び一般管理費	321,537	370,755
営業損失()	142,887	86,826
営業外収益		
受取利息	18,516	18,444
受取配当金	4,355	9,126
投資有価証券売却益	16,369	14,400
その他	7,708	1,990
営業外収益合計	46,950	43,961
営業外費用		
支払利息	3,961	3,788
投資有価証券評価損		4,516
その他	396	1,333
営業外費用合計	4,357	9,638
経常損失()	100,294	52,502
特別損失		
固定資産除却損		268
事務所移転費用		510
関係会社株式売却損	842	
特別損失合計	842	778
税金等調整前四半期純損失()	101,136	53,281
法人税、住民税及び事業税	2,925	2,700
法人税等調整額	67	1,833
法人税等合計	2,857	4,534
四半期純損失()	103,994	57,815
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	35,531	15,173
親会社株主に帰属する四半期純損失()	68,463	72,989

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年8月1日 至平成31年4月30日)
四半期純損失()	103,994	57,815
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	76,642	13,192
為替換算調整勘定	1,415	448
その他の包括利益合計	78,058	13,640
四半期包括利益	182,053	71,456
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	145,813	86,405
非支配株主に係る四半期包括利益	36,239	14,948

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次の通りです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年8月1日 至 平成30年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年8月1日 至 平成31年4月30日)
減価償却費	6,248千円	6,692千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成29年8月1日至平成30年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	法人事業	コンシュー マー事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	843,029	238,609	1,081,638	70	1,081,709		1,081,709
セグメント間の 内部売上高又は振替高	720		720		720	720	
計	843,749	238,609	1,082,358	70	1,082,429	720	1,081,709
セグメント利益又は 損失()	14,573	41,049	26,476	26,157	319	143,206	142,887

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主として研究開発部門の新規領域での事業活動等になります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額は、全社管理部門の費用です。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成30年8月1日至平成31年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	法人事業	コンシュー マー事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,110,941	258,548	1,369,489	26	1,369,516		1,369,516
セグメント間の 内部売上高又は振替高							
計	1,110,941	258,548	1,369,489	26	1,369,516		1,369,516
セグメント利益又は 損失()	35,949	37,102	73,051	16,531	56,520	143,346	86,826

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主として研究開発部門の新規領域での事業活動等になります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額は、全社管理部門の費用です。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(有価証券関係)

前連結会計年度末(平成30年7月31日)

その他有価証券で時価のあるもの

区分	取得原価(千円)	連結貸借対照表 計上額(千円)	差額(千円)
株式		17,806	17,806
債券	310,420	295,729	14,690
その他	552,518	466,172	86,346
合計	862,939	779,708	83,230

当第3四半期連結会計期間末(平成31年4月30日)

時価のあるその他有価証券が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、当該有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額に前連結会計年度の末日に比べて変動が認められます。

その他有価証券で時価のあるもの

区分	取得原価(千円)	四半期連結貸借対照表 計上額(千円)	差額(千円)
株式	29,550	25,846	3,703
債券	310,420	304,588	5,831
その他	541,628	454,740	86,887
合計	881,598	785,175	96,423

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年8月1日 至平成31年4月30日)
1株当たり四半期純損失()	7円03銭	7円49銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	68,463	72,989
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失()(千円)	68,463	72,989
普通株式の期中平均株式数(株)	9,743,499	9,743,481
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和元年 6月12日

株式会社メディアシーク
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 本 間 洋 一 (印)

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 島 川 行 正 (印)

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社メディアシークの平成30年8月1日から令和元年7月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成31年2月1日から平成31年4月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年8月1日から平成31年4月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社メディアシーク及び連結子会社の平成31年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。